

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

深い山で、土を割ってたくましく根を張り合っている杉木立などのことを思うとまことに他愛ないものだが、わが宿にも、たった一本、土を割ってその細い根を見せている木があつて、それが桜なのである。

当の木の幹からはかなり離れた場所だし、まわりには下草などいい加減に植えてあるので、最初は桜の根とは気づかなかつた。隣家にまで根をひろげてゆく竹の話もあることだ。ひよつとすると、これは他所様の木の根かもしれない。①こういうことにかけては子供並の知識も覚束ない私なので、暢気にそう思っていた。

A ある朝、その細い根から、わが目を疑いたくなるような瑞々しい若芽が吹き出しているではないか。無垢、という言葉は、この芽吹きのための言葉かと言いたくなるような、身も心も洗い立てられるような浅緑の芽が、地をほう根から大空に向つて直立しているのである。

それはもう幾日も前から起つていた現象のはずなのに、その朝まで気がつかなかつた。冬が行き、春が②たけなわになり、草木がいつせいに芽吹いて花が咲き、狭い庭も木々の若葉の繁りで③にわかには活気づいてきたために、とかく④大きな変化のほうに目を奪われていたらしい。

日を経るにつれて、小規模ながら形をととのえてくる葉は紛れもない桜の葉である。私はその細い根の前にならずくまつたまま、自然といえれば自然な、不自然といえなくもないようなその現象に見とれた。もとの幹の直径は、優に四〇センチメートルは越している。来る年も来る年も、相当の花で目を愉しませてくれた桜である。若木にこういう現象は起こらないだろうと思うと、空恐ろしくなつた。

鉢に植えられた春蘭を取り出した時、狭い空間によくもこれだけ根をのばすことができたものだど驚かされることがある。わずかのすき間をかぎ分けるようにして、根が根を圍繞してのび続けながら、全体としては鉢の形におさまっているのを見ると、とても心穏やかではいられないが、それを見た時の衝撃とも違つていた。

物言わぬ草木であるが、人の目はその⑤根を見ることが出来る。手で触れてみることも出来る。人は好き勝手に物言う生き物であるが、互いにその⑥根を見合うことができない。触れ合うこともできない。推し測るばかりである。想い、感じるばかりである。

B、自分の根ほどの程度にどうなっているのか。

詩や小説を読む愉しみの一つは、他人として、その作者の根のひろがりや深さを知るよろこびだと言うこともできよう。易しい平明な言葉遣いだからといって、それは必ずしも根の単純素朴と結びつくものではないし、難解な言いまわしが根の複雑さを示すとは限らない。

難解な表現しかとれない複雑な根というものも当然考えられはするけれども、根のひろがりや深さが大規模になればなるほど、上澄みのような平明な表現が求められるということも充分に考えられる。C、二度、三度繰り返して読んで飽きさせず、それに、読む度の新しい発見に弾ませてくれる作品の根に、小規模なものはないということだけは言えそうである。自分の根が⑦しかとこの目に見えないのは不自由だが、⑧よく見えたら死にたくなるかもしれない。

問一 傍線部①「こういうこと」の指している内容として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 杉の生えている山についての知識

イ 隣家からのびた根かどうか見分ける知識

ウ 根から植物の種類を判断する知識

エ 下草をきれいにそろえる園芸の知識

問二 傍線部②・③・⑦の語の意味を答えなさい。

問三 傍線部④「大きな変化」とは具体的にどのような変化か。二つ答えなさい。

問四 傍線部⑤と⑥の「根」という語の用いられ方の違いを簡潔に答えなさい。

問五 傍線部⑧のように思った理由として最もふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 自分の根が複雑で理解することができないから

イ 自分の根の単純さがわかってしまうかもしれないから

ウ 自分の根を見ることに飽きてしまうから

エ 自分の根に少しの発見もないから

問六

A
C

に入る言葉をそれぞれ次から選び記号で答えなさい。

ア それならば イ ところが

ウ ついには エ いずれにしても

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

① ジョクンが行われる

② 汚職をキュウメイする

③ ソウイを着る

④ ヒヤクの年

⑤ シンとして生まれる

⑥ クチュウを察する

⑦ キョウイテキな記録

⑧ 町のトクシカ

⑨ 妻の父はガクオウという

⑩ 美しいインリツだ

⑪ ヘンキョウな考え

⑫ セツケイを歩く

⑬ 爵位を授ける

⑭ 稲作が盛ん

⑮ 貞淑な妻を演じる

⑯ 漸次改良を加える

⑰ 余暇を楽しむ